

かじかわ憲さんを語る

～人を大切にし、新しいことに挑むリーダー～ 成清義之さん



成清義之さん

かじかわさんとは城陽市立今池小学校でともに仕事をしました。同僚からうらやまれるほど子どもに人気があり、保護者からの信頼も厚かったです。

子どもの要求や願いにどう寄り添うか腐心していました。当時、今池小では遠足におやつは禁止でしたが、彼はあえて「必要ちゃうか」と問題提起し、2回も学年集会を開くことにしました。

子どもらに本音を出させ、議論を通じて規則は作り上げていくものだとしていました。

生徒指導でも、問題行動を起こした子どもを頭ごなしに叱るのではなく、「どうしたんや」と聞き役にまわり、生活の苦しさから満たされない心情に寄り添っていました。頻繁に家庭訪問し、教育懇談会など、とにかく地域によく出かけていました。

新しい教育実践にも積極的に挑戦していました。当時、流行し始めた民舞「みかぐら」を真っ先に学び、運動会で仕上げていました。また、最後に5年生を担当したとき、学年合唱とともに学年による器楽演奏も呼びかけ、「6年生を送る会」で「ロッキーのテーマ」を完成させていました。

かじかわさんは京教組の専従になり、子どもたちが6年生に上がる時担任は出来ませんでした。彼らは卒業するとき、かじかわ先生に学んだ「ロッキーのテーマ」を演奏し、かじかわ先生が好きだった「君よ心の舵をとれ」を合唱しました。

人を人として大切にし、新しいことに挑戦して現状を変える。まわりのみなさんとながら、輪を広げ、教育や政治を良くすることに、力を注いできたかじかわさん。彼こそ、次代の京都のリーダーにふさわしい人です。



城陽市立今池小学校時代のかじかわさん

～多様な府民の声を聞き、良き“伴奏者”のような知事に～ 廣岡明郎さん



廣岡明郎さん

「梶やん」ことかじかわさんとは、宇治久世教組青年部のメンバーでつくる宇治久世教職員組合付属バンド(「宇治久世バンド」)と一緒に活動しました。

1983年の組合教研集会の際、かじかわさんら楽器好きの仲間と「バンドをつくろう」と結成しました。新採歓迎集会、教研集会など各種集会で演奏し、85年には「京都民報」新年号の1面に写真が掲載されました。

それ以前にも、かじかわさんが合唱のピアノ伴奏をしているのを聞いて、「うまいな」と思っていました。曲が盛り上がれば力強く、静かに歌うときには優しく寄り添う。歌を良く聞き、状況に応じてアレンジする弾き方です。バンドで新しい曲を演奏するときは、大まかな意図を伝えるだけで、おまかせでやってくれました。

音楽上もそうですが、バンド運営でもサービス精神が旺盛で、ダジャレや冗談を飛ばしてみんなを笑わせてくれるムードメーカーでした。しかし、締めるところはしめ、細かなところ

にも気がついて動いてくれる若いのに頼りになる存在でした。

「いつか知事選に立候補する人や」

京都教職員組合(京教組)の専従になるときにメンバーの一人が「いつか知事選挙に立候補する人や」と言っていたことが現実になりました。

京教組に行ってかじかわさんの顔付きは精悍になりました。組合員を守るために音楽を封印したのではないかと思います。

かじかわさんには、生活に苦しみ多様な府民の声を聞いて、府民の良き伴奏者のような知事になってほしいと思います。



梶川憲、廣岡明郎、今村克彦、吉岡浩市郎(敬称略)

京教済

月々600円の掛金で結婚祝金に10,000円など、色々な給付
退職時には掛金が全額戻ります！